



市報

CONTENTS
主な内容

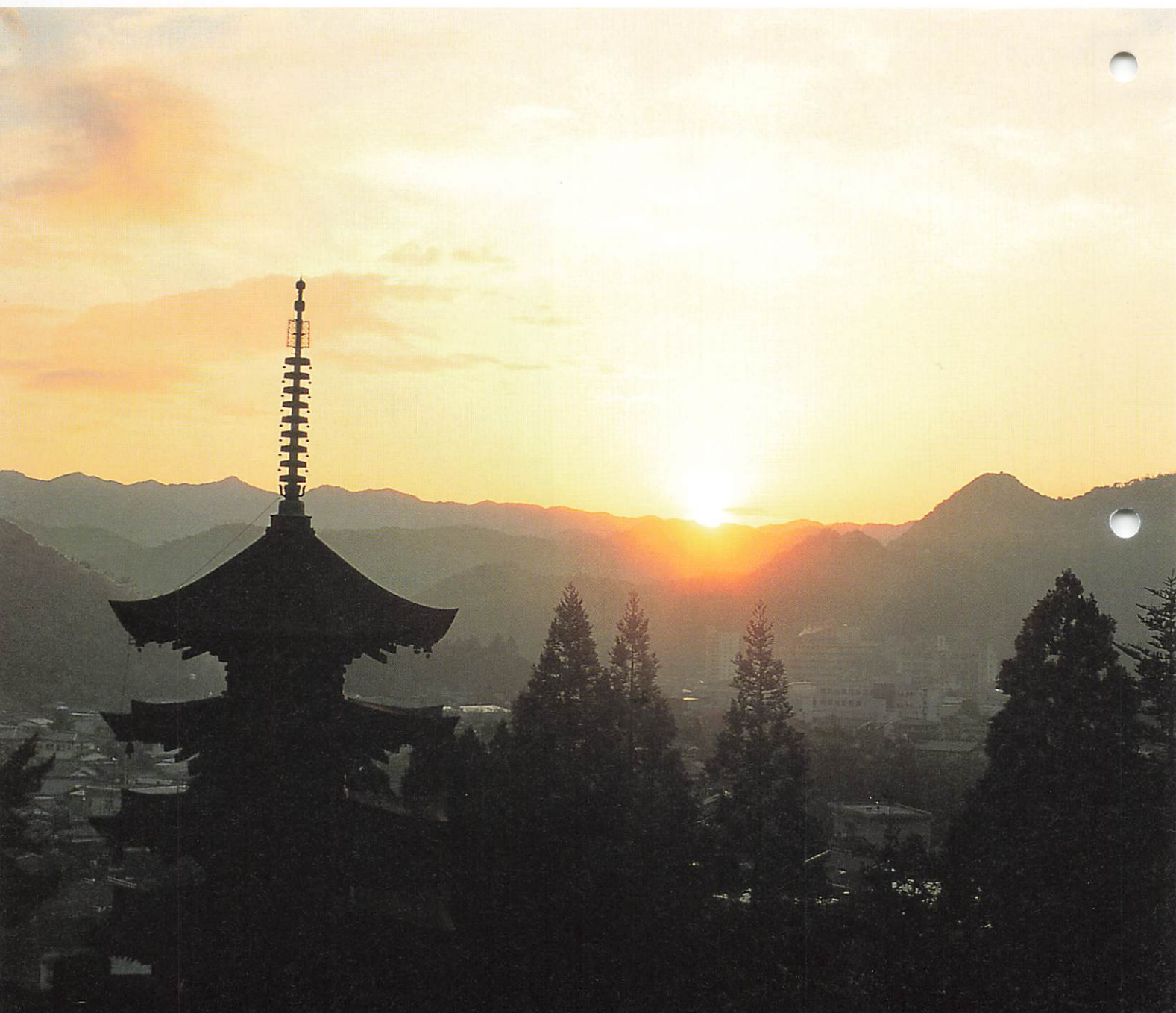
新春特集

大内文化薫る

これから五百年のまちづくり

JANUARY

Communication Paper Yamaguchi



●発行／山口市 〒753-8650山口市亀山町2-1

●ホームページ／<http://www.city.yamaguchi.yamaguchi.jp/>

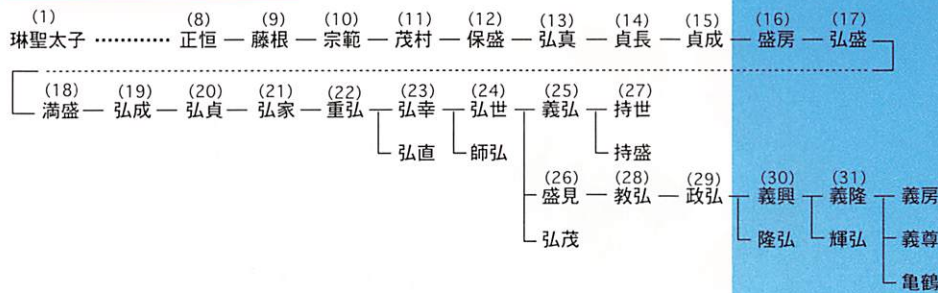
●編集／企画財政部広報広聴課 ☎934-2753

●Eメール／koho@city.yamaguchi.yamaguchi.jp

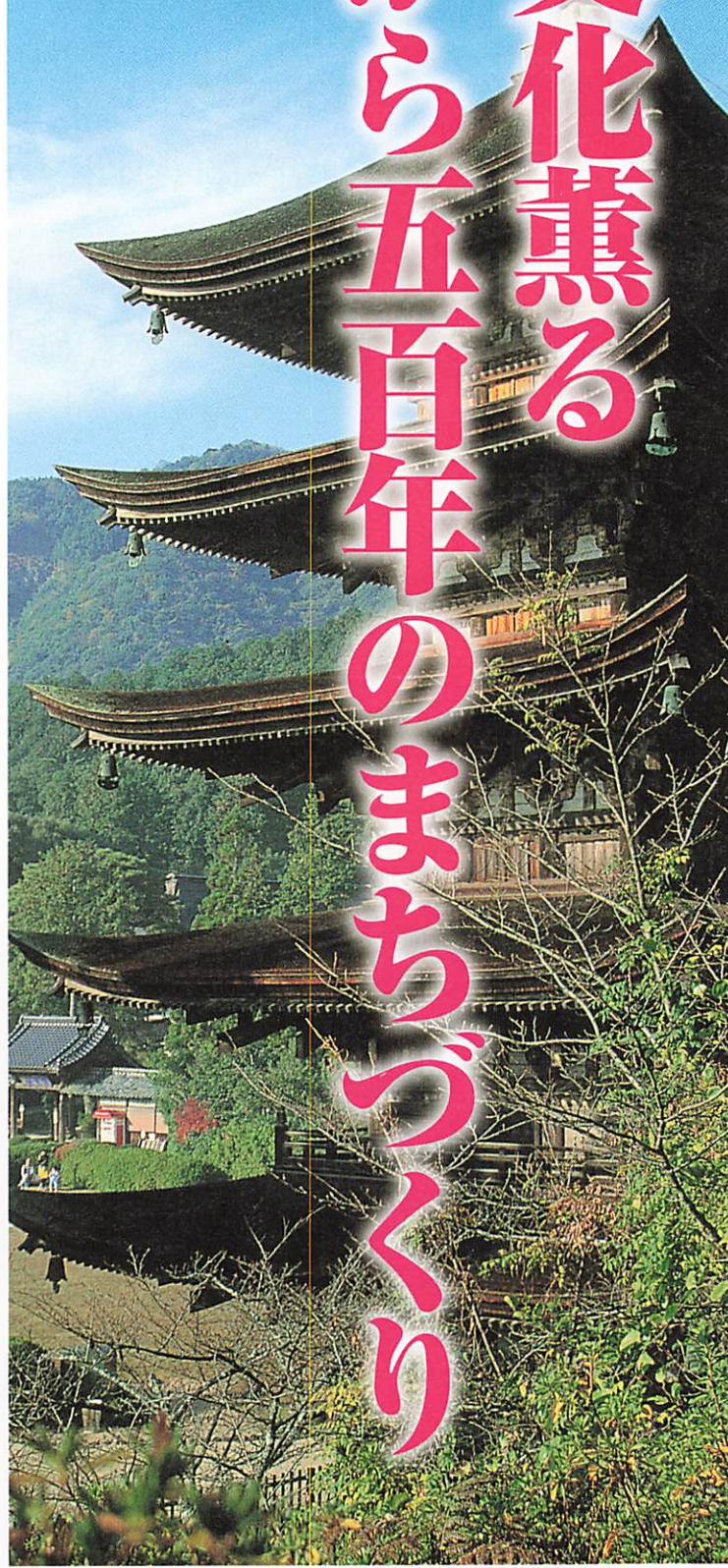
●印刷／山口印刷工業株式会社

古紙配合率100%再生紙使用

大内氏略系図



大内文化薫る これから五百年のまちづくり



今から五百年前、私たちのまち山口は、この地を支配した大内氏によって形づくられ、その当時の先進的な京都の文化を取り入れるなど、その栄華は西国一とまでいわれました。今でも、まちの風景、自然、祭などの文化は当時の影響を色濃く残し、私たちに静かに語りかけています。

こうしたまちの歴史を紐とき、次の時代へと継承していくことは、私たち自身が暮らすまちへの誇りを持ち、地域の個性として磨きをかけていく上でも重要な意味を持つといえます。

山口市では、昨年一月に「大内文化まちづくり推進計画」を策定しました。この計画は、「大内文化」を魅力あるまちづくりの一つのキーワードとしてとらえ、市民のみなさんとともに、将来にわたって誇りを持てるまちづくりを行い、大内文化薫る都市イメージを発信していくというものです。

今回は、「大内文化」といういろいろな立場で関わる方々にお話をあ聞きしました。みなさんも知らなかった「大内文化」再発見があるかもしれません。

「大内氏の時代から今に五百年、そして未来に五百年」



ふくだれいすけ
福田礼輔さん
大内文化のまちづくり協議会会長。市民の立場から、新しい山口の創造に向けて、さまざまな活動を行っている。

大内氏の歴史、文化を探究することは大切なことですが、それらの知識を新しいまちづくりに生かすことが何より大切だと考えます。先人が刻んだ足跡、営みの中には素晴らしいものがたくさん残っています。現代において、古い中から、



山口市議会議長 武田寿生

二〇〇四年の新春を寿ぎ、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、昨年は、「山口県央部合併協議会」が設置され、県央2市4町の合併協議が行われる中、小郡駅が新山口駅に改名されるとともに「のぞみ」の停車が実現いたしました。また、やまぐち情報文化都市づくりの拠点施設である「山口情報芸術センター」もオープンし、多くの皆様にご利用をいただいております。山口市のみならず、県央部にとりましても、時代の潮流による大きな転換期を迎える中、一段と飛躍を果たした一年であったと思います。

今年は、これらがより効果的に作用いたしまして、交流人口の増加やそれに伴う地域経済の活性化が図られますよう、大いに期待しております。

市議会といたしましても、「真に市民の負託に応える議会」を目指し、議会としての機能をより充実させ、二十一世紀に輝き続ける県都山口市の創造に向けて取り組んでまいります。市民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

賀春



山口市長 合志栄一

輝かしい新春を迎え、市民の皆様にご挨拶を申し上げます。

地方自治体を取り巻く状況は、地方分権時代にふさわしい「市町村合併の推進」や「三位一体改革」等、国と地方の関係の見直しにより、足腰の強い地域主導型社会の構築が進みつつあります。

こうした時代の中で、生命が豊かに育つ、二十一世紀のモデル都市「西の京やまぐち」の実現に向け、本年を「新県都建設に向けて発進する年」と位置づけ、「特色ある県央中核都市づくり」「生活者重視の施策展開」「官から民への構造改革」を施策推進の基本方針として、市政に取り組んでまいります。特に、県央中核都市の実現に向け、本市の独自性を保ち、個性と魅力あるまちづくりの確かな布石となる事業を着実に進めますとともに、不退転の決意で県央合併に取り組んでまいります。

今後とも、市民の皆様と力を合わせ、新たなまちづくりを進めてまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

新しいものを組み立てる必要があります。まさに「大内氏の時代から今に五百年、そして未来に五百年」ということだと思っています。

大内氏の時代は、地方、そして、庶民の時代

大内氏の時代は、地方の大名が、地域の特性を生かしたまちづくりを行ってきました。今に言う「地方の時代」だったといえます。

農業についても、集団営農が行われ、海外から伝えられた技術等を用いて、米の生産量が増えたといわれています。貿易はとも盛んで、大内義隆のときの遣明船には、約400人が乗船し、その内、200人以上は商人が占めていたようです。大内氏の時代は、町民も、農民も暮らしやすかったようです。庶民がいきいきと活動した、庶民の時代でした。

後に、毛利氏によって五重塔を救へ移す話が出たときに、庶民からの保存の陳情により五重塔が山口に残ることになったという話からもわかるように、大内氏の築いたまちは庶民の誇りであったでしょう。

庶民がどういう暮らしをしていたかなど、大内氏の時代から学ぶことは多いと思います。五百年前には一地方都市が、国際化を図ってきたわけですから、情報ネットワークで世界が結ばれたグローバルな時代において、現在の山口市も、海外と積極的に交易すべきだと思います。

2市4町は佐波、根野川によって強いつながり

大内氏が栄えた時代は、足利時代の混乱期、幕府が求心力を失ったときで、今の情勢とよく似ています。現在山口市においても、地方の時代にふさわしい、魅力あるまちづくりを行うため、2市4町で合併の協議が進められていますが、市町



大内氏の時代、榎野川河口は、中国大陸との交易船の出入港であった。

間での綱引きが行われているような感があります。

まずは、きめ細かい住民サービスが提供できる行政システムをしっかりと構築してほしいものです。

大切なことは、21世紀を担う若い人たち、市民の意見をよく採り入れ、それを大事にまちづくりを進めることだと思います。県央の未来を見つめた新世代による大胆な都市デザインを期待したいです。

2市4町は、昔から、強い結びつきがあるのです。佐波川、榎野川という水系の違いから、市民性が違うという人もいますが、両川の源流は、西中国山地で、最後は、瀬戸内海へ同じく注いでいます。ここ吉佐地域において、両川は、境界を示す川筋ではなく、この地域が一体感、連帯感を持つための重要な役割を担い、流域を中心に

産業、文化等を育ててきました。

江戸時代には、両河口は、いずれも^(※1)北前船の寄港地、風待港とな

って海上交通で結ばれていました。

大内時代、大内氏が多々良姓を名乗り、右田地区（防府）に居城を持ち、さらに山口に移駐してからは三田尻との間を結ぶ小鯖街道を開通させ、さらにそれを毛利氏によって、萩、山口、防府を結ぶ街道、萩往還として陸と海に通じる大動脈となりました。

また、小郡と三田尻の間は、藩政時代の代官制、吉敷^(※2)宰判と佐波宰判に見られるように、大道、四辻は、小郡宰判の管内で、榎野川と佐波川を渡る山陽道の重要性を藩の姿勢に見ることができ

大内氏の時代のように、市民が誇りを持てるまちに

山、川、海の豊かな自然の中、それぞれの都市が機能的に結ばれる21世紀型の県央都市をつくる必要があります。市内に2つの川を持ち発展した都市は多いわけです。視野を広くし、パノラマ的に新都市構造を考え、大内氏の時代のように、市民が主役で、誇りをもてるようなまちづくりを、県央部合併で実現してほしいと思います。

（※1）江戸時代、北国地方の物資輸送に従事する荷船に対する上方での呼称。

（※2）長州藩における郷村支配の中間組織として、一代官の管轄する地域。

山口の物語をみんなで作っていききたい



おきやま とみ こ
穂山富美子さん
京都や東京での生活体験を生かし、大内文化まちづくりサポーターとして活躍中。

大内文化まちづくりサポーターは、現在7名。穂山富美子さんはその一人として、大内文化の歴史的遺産を生かしたまちづくりについてアイデアを出し合い、未来の^(※1)大内文化特定地域の姿をマップやガイドブックなどにまとめる活動をしています。

やまぐちの魅力、大内文化の魅力

「山口は、町並みと自然が調和し、歴史が普段の生活に溶け込んでいる美しいまちです。でも、まちの人はその良さに気づいているのかしら、そういう思いからサポーターに応募しました。また、室町時代は、日本の伝統文化の源流が見られる重要な時代といわれています。大内文化が華開いたのは、まさにその室町時代であり、その意味から、大内文化は歴史的にとっても価値あるものなのです」。

**大内文化はまちの宝・・・
もっとまちに誇りをもってほしい**

「山口が、室町時代研究の中心地になってほしいですね。そのためにも、拠点となる『（仮称）大内文化歴史館』の実現に期待しています。また、日明貿易など、早くから国際化に取り組んでいた大内氏にちなんで、国際交流によるまちづくりを進めてはいかがでしょうか。」

これまで、東京や京都などいろいろなまちに住みましたが、その人を引きつけるまちには、そのまち固有の物語があるように感じました。それは、まちの人たちが先人から受け継ぎ、努力して磨いてきたものだと思うんですね。私も、市民のみなさんと心を一つにして、山口の物語を作っていけたら、そして、大内文化をまちの宝として磨いていけたらと願っています。

私たちサポーターの活動が、まちが活性化する一つのヒントとなり、市民のみなさんがそれぞれの夢を描くきっかけとなって、まちづくりの気運が盛り上がってほしいですね。何より、みなさんにもっと大内文化に興味を持っていただき、山口に誇りを持っていただきたい。そして、子どもたちが『帰ってきたい』と思えるまちにしたいと思うのです」。

（※1）大内文化特定地域…「大内文化まちづくり推進計画」（平成15年1月）で、大内時代から育まれた歴史資源が多く残り、経済や文化等において市内への波及効果が期待できる地域を設定したもの。

大内文化を分かりやすく伝えるために…



くにもりすむ
國守進さん

山口市史「史料編」の大内文化専門部会長。大内文化を分かりやすく伝えようと、現在、広範囲な史料収集に励む。

國守進さんは、山口市が昨年度から作業を進めている山口市史「史料編」編さん事業の中で、大内文化編の専門部会長をされています。山口のみならず広範囲に勢力の及んだ大内氏について、現在は史料の収集に励んでいます。

「大内文化については、これまでもいろいろな書物に書かれています。今ひとつわかりにくい面があったと思います。私の担当する大内文化編では、大内氏の文化内容について、文化財、文学、芸術、宗教、建造物等の史料のほか、大内氏の暮らしなど身近なものまでできるだけ多く集め、大内氏を知る上での基本的な材料を提供したいと思っています」。

語り継がれる大内氏の文化

「大内氏は16世紀に滅びましたが、文化面では大内氏を語る書がその後いくつも残っています。十返舎一九、為永春水など、近

世の著名な作家が大内氏に関わる小説を残しています。また、こうした作品は、明治期に入ると講談師によって語り継がれていきました。それほど、栄華を極めたとともに、悲劇的な最期を遂げたことが鮮烈な印象を与え、近世作家を刺激したんでしょう」。

おもしろく紐とけるものに… 今と昔、歴史のつながりを知る

「古い町並みや景観を残そうという動きは全国的な取り組みとなっています。山口でも同じことが言えますが、一人の力でできることではありません。大切なのはそこに暮らす人が大内氏の残した文化を知り、地域が一体となることだと思います」。

そのためにも、市史『史料編』の役割は、史料収集はもちろんですが、大内文化を分かりやすく伝えることだと思います。大内文化を身近に感じ、誰もがおもしろく紐とけるものになりたいと思います。それによって、みなさんが何げなく知っている『昔山口に栄えた大内氏』という断片的な印象だけでなく、今に至る歴史のつながりをより深く知ること、将来の山口のまちをある一つの方向へと導くことにつながるのではないのでしょうか」。

熊の丸(嘉川地区名)は大内氏の貿易船？



すぎやままさみ
杉山正實さん
山口市史「史料編」編さん、民俗専門委員を務める。また、な公民館で歴史の講座を開くなどの活動をしている。

「大内氏」と聞くと、大殿地区のことを連想される方が多いかもしれません。しかし、大内時代の薫りは市内の各所に残されています。嘉川の歴史を研究し、郷土史「ふるさと嘉川」の製作にも携わった、杉山正實さんにお話を聞きました。

嘉川に残る大内時代の薫り

「嘉川にある住吉神社は、大内氏の始祖である琳聖太子が百済から航海し、嵐で漂着した場所だといわれています。そこで航海の神に祈ると嵐がやんで無事に航海でき、防府の多々良の港から大内盆地へ。そして大内氏が始まったといわれています。また、水上交通にとって重要だった樅野川が海に注ぐところでもあり、大内氏が大切にした場所だったのではないかと思います」。

地名にも大内氏にまつわるものがあります。例えば、『熊の丸』という地名は、大内氏の勘合貿易が盛んだった時代に、深溝から



熊の丸にある井戸の跡。かつて、港に立ち寄った船乗りたちがどの渴きを潤していたといわれている。

熊野丸という貿易船が出ていたという記録が残っており、その貿易船にちなんだつけられたと考えられています」。

今あるものを後世に伝えたい

「私は以前は郷土のことを全く知りませんでした。自分の郷土のルーツを知りたいと思うようになりました。最初は、古文書を読むこともできませんでした。今では暗号を解読するようで、小説を読むよりも楽しくなりました」。

私は、昔のものを調べて整理し、後世に伝えていきたいと思っています。今残っている資料を活用して、若い人にも読んでもらいたい。資料をどう使えばおもしろくなるかはその人しだい。普段何気なく通っている道にある石碑などでも、どんないきさつでそこにあるのか分かったら、いつもとは違って見えてきます。そうすれば、ふるさとに愛着がわいてくるのではないのでしょうか」。

(※1) 大内義隆の代に大内氏は最盛を極めるも、重臣陶隆房(後の晴賢)の反乱により追われ、長門の大寧寺で自刃(一五五一年)。

(※1) 明と日本の貿易で、明が、正式な使船であることを示す勘合符を発行して行われた。

「縦」と「横」の大内史

斉藤智恵さんは、愛知県安城市で市史編さん業務に関わる傍ら、気付いたらとりこになっていったという大内氏の歴史、文化の研究を現在も独自に続けています。

惹きつけてやまない大内氏の魅力

「幕末の長州藩について調べていた過程で、毛利氏前史に力を振るった大内氏に自然とたどり着きました。大内氏はあまりにも自然に私の中へ入り込み、何の違和感を感じさせることなく私の心を奪っていった存在といえます。

ではその魅力とは一体何だろう。考えるに、それは大内氏の作り上げた歴史と文化が持つ幅の広さとグローバル性にあると思います。知人に大内史の魅力を尋ねられる時、私はよく『縦と横の幅広さ』という言葉で答えています。つまり、縦は『時間的幅の広さ』と、横は『地域的幅の広さ』のことです。大内氏は、古代に在庁官人として歴史舞台に現われ、戦国末期に至る長い歴史の間、常に中央政庁との関わりを持ち続けまし



さいとう ちえ
斉藤智恵さん
大内氏の魅力に惹かれ、年数回は、愛知県から調査・研究のために山口市を訪れるとのこと。

た。また、渡来系氏族を祖先とするというルーツを生かし、海外にまで及ぶ広い交易・交流を実現しています。それだけではなく、それぞれの時代の転換期には、中央政界にも名の知れた英雄を輩出し続けてきました。歴史研究の面や人間ドラマにおいても、またその濃厚で多彩な文化面においても、これほど魅力ある氏族を私は知りません。とにかく壮大な魅力が大内氏にはあるんです。

大内氏のグローバル性や柔軟かつ骨太に時代を闊歩した気質は、国際社会と化した今の日本が学ぶべき点も多いと思います。

大内氏の研究が国際交流へつながれば

「現在、私は大内氏の先祖伝承の成立過程における思想的な影響などについて、つたないながらも研究をしています。その過程で、大内氏の日朝交易に少なからぬ興味を抱いています。最近始めたばかりのハンゲル語はまだ用を成さないレベルですが、いつか大内史を介する交流史研究によって、現代の国際交流につながる研究ができればと思っています。また、その過程で、国内外に広く大内氏を知ってもらうことができれば、この上ない喜びです」。

大内文化を活用し歴史的まちづくりを



まい てつや
今井徹也さん
市内で建築設計事務所を営む。菜香亭の移築に関する調査などの取りまとめにも関わる。

今井徹也さんは、大内文化まちづくり研究会の委員を務めるなど、建築家として大内文化を生かしたまちづくりに関わっています。今井さんに、都市形成などの面からみた大内文化についてお話を聞きました。

大内氏の時代から都市計画を行っていた

「大内氏の時代の山口は、国際的な都市であったといわれています。昔は、都市としての見た目の美しさだけではなく、外から来た人を心暖かくもてなし、他のものを受け入れる包容力があるまちであったと思います。」

また、当時から、他のまちではほとんど行われていなかった都市計画を行っていたようです。碁盤の目のように町割を行い、山や川などの自然の景観を生かしつつ、平坦な地形に比べ、まちの形成が難しいと思われる盆地の特性を、逆にうまく活用していました。い

ずれにしても、何らかの目標を持って、数百年後を考えたまちづくりを行っていたと思われる。」

今までの景観を大事にし、歴史的なまちづくりを

「山口市には、美しいまちを形成するための素地がたくさんあります。県外に住む知り合いの建築評論家は『山口の瓦屋根の連なりが美しい』と話し、県外から来た美術家は『山口は非常に美しいまちである。建物があまり高層化しておらず、他の県庁所在地とは違って、市の中心部にいても周りの緑が見える』と話しています。ただ古い建物を壊して新しい建物をつくるのではなく、今までの景観を大事にしなが、ゆっくりとより豊かなまちにしていけることが大事です。」

大内文化のまちづくりとは、歴史的なまちをつくること、すなわち、美しい、味わいのあるまちをつくることだと思います。山口にとって大内文化があるということは非常に重要で、現在の都市形成においても、シンボリックの一つの手段として活用し、少しでも多くの市民が、大内文化のまちづくりに対する意識を持ち、それに関わっていくことが大事であると思います」。



再発見！通学路にすごい歴史があったんだ



取材に協力してくれた大殿中学校生徒のみなさん。垣村賢孝くん(左後)、宮崎透くん(右後)、杉山仁美さん(左前)、吉岡遼子さん(右前)

大内文化の薫りが今も町並みに残る、大殿地区一帯。市立大殿中学校では、毎年1年生を対象に「歴史と伝統の町、私たちの『大殿』をより深く知る」ことを目的として、地区内を散策しながら町並みを再発見する「大殿ウォッチング」という行事を開催しています。

知って気付いたふるさとを再発見

この行事によって初めて知ったことがたくさんあったようです。「それまで身近にありすぎてわからなかった、まちの魅力や歴史の深さを知りました。このまちに住んでいることを誇りに思います(宮崎くん)」「特に興味を持った五重塔について詳しく調べ、歴史が今なおまちに息づいていることを感じました(垣村くん)」「堅小路は大内氏の時代には主要道路だったと知り、当時の人々がぎやかに行き来しているのを想像しながら歩いたら、楽しい気持ちになりました



今年はウォークラリー形式で開催された「大殿ウォッチング」。チェックポイントの一つ、国指定重要文化財「龍福寺」前で、熱心に問題に取り組む生徒たち。

した(吉岡さん)」「小さい頃から遊んでいた場所の歴史を知り、すごいなあと感動しました。今度改めて詳しく見に行きたいと思っています(杉山さん)」。

次代までも続いてほしい大殿の町並み

今後、自分たちの住む町並みがどうあつてほしいですか?と聞いたところ、みな一様に「ずっとこのままであつてほしい」と答えてくれました。生徒のみなさんは、町並みの背景を知って、ますます大殿地区を好きになったそうです。「みんなも自分が住むまちの良さをよく知ったら、今よりもっとまちを好きになれると思うし、そんな気持ちを持って暮らせるといいなと思います。歴史が薫るこの町並みが、私たちの次の時代も、そのあとも、ずっと残っていつてほしいと思います」と、郷土に対するそれぞれの確かな想いを聞かせてくれました。

お正月コラム

大内時代の ごしゃもう 五社詣で

昔、日本には、国ごとに一宮から五宮と呼ばれる神社があり、奈良時代以降、朝廷の命を受けた(※1)国司が

その国に着任すると、国内の主要な神社にお参りするという風習がありました。

大内氏の時代には、国司制度は既に崩壊していましたが、大内義興がこの故事に倣って五社詣でをした記録が「昭和8年版山口市史」などに残っています。

それによると、明応6年卯月16日(1497年5月16日)、義興は、筑前国で少弐氏との戦のさなか、戦勝祈願のため、周防の国の五社、すなわち一宮「玉祖神社(防府市)」、二宮「出雲神社(徳地町)」、三宮「仁壁神社(三の宮二丁目)」、四宮「赤田神社(吉敷)」、五宮「朝田神社(矢原、以前は朝田真庭)」

(※1) その国の長官、今でいえば県知事のような地位
(※2) 昔の乗り物、御所車など



旧朝田神社(朝田)



朝田神社(矢原)

に参詣しました。

義興は、この五社詣での前夜、一宮の宿坊に宿泊し、午前2時頃から五社詣でに出発しました。その後、午前10時には二宮、午後2時に三宮、午後4時に四宮に到着・参詣し、午後6時にやっと最後の五宮にたどり着いたそうです。(※2)輿に乗って、夜明け前から夕方まで一日がかりのお参りは、義興もさぞ疲れたことでしょう。最後の五宮では、従者や参拝客とともに酒宴を開いたとの記録が見えます。

当時、五社詣でという行事が、全国的に定着していたのかどうか定かではありませんが、少なくとも周防の国では盛んだったようです。その名残か、お正月の五社詣では、明治以降昭和の初めまで、全国各地で見られました。義興の五社詣では、現在の初詣の草分けだったのかもしれないですね。



仁壁神社(三の宮二丁目)



赤田神社(吉敷)

年末年始のお休み（追加）

12月15日号に掲載の「主な市の施設（年末年始のお休み）」について、山口ふれあい館、山口南総合センター、やまぐちリフレッシュパーク、サンフレッシュ山口のお休みに1月5日の定休日を追加します。



お知らせ

平成16年 山口市消防出初式

◇日時 1月11日（日）午前10時
午後零時30分

◇場所・内容 山口南総合センタ
ーホール：式典／山口南総合セ
ンター運動広場：検閲及び観閲
行進、公開
訓練（救出
救助訓練）、
一斉放水
※当日は温か
い豚汁・ゼ
んざい（無
料）を用意



市臨時職員登録募集

市臨時職員の任用は、希望され
る方に事前に登録していただき、
欠員などが生じた場合、その登録
者の中から行います。
◇登録方法
・市販の履歴書に写真を貼って自
筆で記入してください。
・資格・技能・免許をお持ちの方
はその旨お書き添えてください。
・登録の有効期間は1年間です。
◇登録受付 随時

エコパークやまぐち

かわらばん



1月のリサイクルアイデア講座

（午前10時～正午）

いつでも参加できます。申し込みはいりません。

さき織り	8 (木) 15 (木) 22 (木) 29 (木)
パッチワーク（初級）	10 (土) 14 (水)
トールペインティング	14 (水) 28 (水)
洋服のリフォーム	15 (木) 30 (金)
毛糸のリサイクル	16 (金) 23 (金)
布あそび	17 (土) 24 (土)
和服のリフォーム	20 (火) 27 (火)
カントリードール	21 (水) 28 (水)
ネクタイを使った小物作り	22 (木)
牛乳パックで小引き出し作り	24 (土)
余り布で作るコサージュ	29 (木)

※パッチワーク（初級）の10日は午後1時～3時

トールペインティング、カントリードールは午前9時30分～正午

おもちゃの病院

◇日時 1月11日（日）受付時間は午前10時～11時30分

※1月、2月のフリーマーケットはお休みです。次回は3月14日（日）です。

◇問い合わせ 市リサイクルプラザ（☎927-7122）

編集後記

・新年明けましておめでとうござ
います。今年は申（さる）年です。
申年は「魔が去る年」ということ
で、良い年になるといわれていま
す。▼今回は、本市に約五百年に
わたり受け継がれてきた大内文化
について特集しました。▼本市の
豊かな自然と薫り高い文化が、市
民と行政の協働によるまちづくり
を行うことで、より高次の優れた
都市機能を持つまちへ発展するよ
う、切に願うものです。▼今年が
みなさんにとって良い年となるよ
う、心からお祈り申し上げます。

◇申し込み・問い合わせ 市職
員課（☎934-2727）

職 種	勤 務 時 間	賃 金	社会 保険
一般 事務	8:30～17:15（月～金） 8:30～17:15（月15日）	日額6,640円 日額6,640円	○
保育士 （要資格）	8:30～17:15（月～金） 8:30～12:30（土）	日額7,360円	○
給 食 調理員	8:30～17:15（月15日） 1日8時間以内	日額6,640円 時給 830円	

※賃金は平成16年4月以降の適用額

“元気都市の創造”を目指して 2市4町首長新春対談（山口ケーブルテレビ）

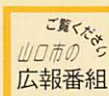
1日～10日 午前7時15分、正午からそれぞれ60分間放送。

山口のんた情報（山口ケーブルテレビ）

午前7時45分（火・金）、午後零時15分（月・木・日）、午後6時15分（水・土）、午後10時（火・金）から20分間放送。
○1日～31日 「県央部中核都市づくり ひと・まち・自然がきらめく 元気都市の創造」

※1日～10日の午前7時45分、午後零時15分からの放送は、2市4町首長新春対談のためお休みします。

1月の放送予定



わたしたちのまち山口
「新年 市長インタビュー」

やまぐちしま専科（山口朝日放送）

毎週水曜日、午後1時55分から4分間放送。

- 7日 「新春 市長対談」
- 14日 「山口情報芸術センターワークショップ」
- 21日 「新年 百人一首大会」
- 28日 「栗林和彦のふるさと再発見」

わたしたちのまち山口（テレビ山口）

毎週日曜日、午前11時40分から4分間放送。

- 4・11・18日 「新年 市長インタビュー」
- 25日 「乳幼児の子育て応援します！」